

事故事例に学ぶ... 3

黄信号を通過中、脇見をして先行車に追突

連続した信号交差点での追突事故

事故の概要

発生状況

日 時:平成9年10月某日 午後5時30分頃

天 候:曇り

発生場所:神奈川県下の県道

道路状況:車道幅員 10.2m、片側一車線の県道
と、7m 道路が交差する交差点付近

事故の当事者

A (10tトラック運転):年齢 39 歳・男性

運転歴 15 年・事故歴なし

B (乗用車運転):年齢 28 歳・女性

運転歴 8 年・事故歴なし

被害状況

A:人身なし・物損(バンパー小破)

B:人身(重いむちうち)

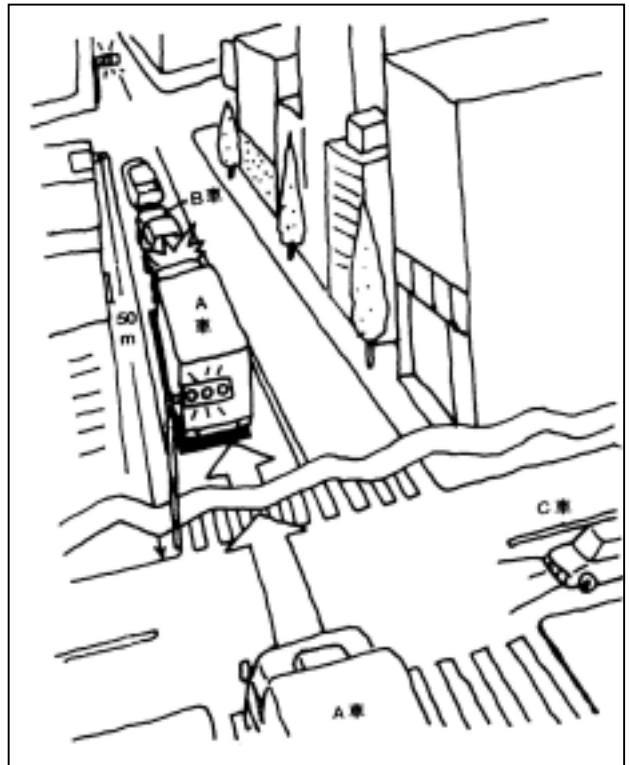
物損(リアトランク・バンパー大破)

事 故 状 況

事故当日、Aは、いつもの通り朝8時に営業所を出発。途中天気もよく、道路もいつもと違い走行車両も少なく、「今日はラッキーだな。」と思いながらハンドルを握っていた。昼頃目的地に着くと、そこで食事を済ませ一休みした。積荷を卸し、帰り荷を積んで、帰路についたのは午後1時30分だった。

Aは今日の仕事を終わると、明日から4日ほど休みを取り里帰りすることになっていた。久しぶりに会う両親、兄弟や友人達のこと、お土産のことなどを考えながら車を走らせた。

やがて、それまで快晴だった空に暗雲がたちこめてきた。Aは、今にも雨が降ってきそうな空を見て「これから荷の積み替えもあるし、早く帰らなく



っちゃ。」と思いながら、いつも休憩するドライブインにも立ち寄らず、アクセルを踏み続けた。

ようやく営業所近くの県道に入り、少しそわそわしながら一つひとつの交差点を通過していった。そして、問題の交差点に近づいた時、信号が目の前で黄色に変わった。Aは、内心アッと思ったが、通過してしまえばばかり時速 60km で交差点に進入した。その時、交差道路右側の車Cがヘッドライトをパッとつけたのが見え、それが気になり右側を振り向いた。「なんだ、あの車は・・・。」と思いながら、前方に目を戻したところ、次の交差点は赤になっており、そこに停止した先行車Bを認め、慌ててブレーキを踏んだが間に合わず追突してしまった。

事故の原因と防止策

事故は自然に起こるものではありません。事故が起きた時、その背景を探ると様々な要因が浮かび上がり、それらは複合的に絡み合っています。

このケースでは、Aは“交差車両のヘッドライトに気を奪われて”脇見をしたということです。この場合、多くの管理者の方は、短絡的に、ただ“脇見”で処理しがちです。

なぜそのような行為に及んだかという、その時の運転者の心理状態を探ることが大切です。いろいろな事故を分析すると、その90%が人間の怠慢な心を原因として発生しています。事故を起こすのは人間であるということを理解して、事故を分析することが大切です。

特に、明日は休みとか、旅行に出かけるというように、業務の節目にあたる時は、運転者の心は不安定になることも理解しておく必要があります。

交差点は追突事故多発地帯

交差点、ここでは交通事故の約50%が発生しています。従って交差点を通過する場合には、十分な注意が必要であり、決して漫然と通過してはいけないことはドライバーである以上誰でも知っていることです。

また、その交差点での事故を類型別に見ると、追突事故が多発しており、それも信号機が設置されている大きな交差点で多く発生し、しかもその約80%が停止車両への追突です。

急ぎの心理が働いていた

信号や先行車の動きに注意を払っていれば、このような事故は防げるはずですが、これができなかったということは、運転者が、“急ぎの心理”や“漫然運転”に陥り、目の前の危険に対する意識が鈍くなっていたということです。

Aは、管理者への事故報告の中で、

午後になって急に天気が悪くなり、雨が降る前に帰りたいと思った。

営業所での荷の積み替え作業があるので、それを終えて自宅に帰るのが遅くなる。

明日から里帰りで休みなので、そのお土産を何にしようかと考えていた。

ことを吐露しています。

このように、考え事をしたり急いでいたりしていたことが事故に繋がったことを窺い知ることができません。

交差点内で速度を上げた

Aは、管理者の質問に対して、時速50kmで走行していたが、信号が黄色に変わったので、あわてて速度60km位に上げたと言っています。

交差点に進入する時は、速度を落とすべきなのに、Aは逆に速度を上げ、一気に交差点を抜けようという急ぎの心理に陥ったのです。

交差点に進入する時は、まず減速することが大切ですし、また信号が黄色に変わった時は、停止する心の余裕が大切です。

信号は遠くから確認しておく

安全は、「次の次」を読むことが大切であり、信号もその一つといえます。普通はすぐ手前の信号を確認して通過・停止の判断をすることが多いのですが、これでは目の前で急に黄色になった場合の心構えができず、交差点内での急加速につながります。

信号は、目の前の信号だけでなく、二つ三つ先の遠く離れた段階から、その色を確認しておき、そこに到達するまでに色が変わるかもしれないと予測しながら走ることが大切です。